

二期生の近況報告

皆さま、二期生の近況報告です。日本中から、そして海外から、近況報告が集まりました。二期生はやんちゃと言われたこともありましたが、みんな熱い思いがありました。青い情熱がありました。その情熱は変わらないことを読みとって頂けるものと思います。

二期生は毎年1月に新年会を開催しています。幹事は皆の持ち回りで行っており、担当する幹事が趣向をこらして開催しています。沖縄在の二期生だけではなく、日本中から集まり親交を深めています。二期生には「昴」というメイリングリストがあります。古堅隆司さんが管理をされています。二期生の情報交換の場となっています。2000年5月の開設以来2199件の投稿がありました。ざっくばらんな話題もありますし、高度な医学的議論がなされる場合もあります。殊に2011年3月、4月には東日本大震災の際には現地在住のメンバーからの報告、安否確認や災害派遣の情報などが「昴」をとおして行われました。

今回の企画は、編集を担当した私（比嘉）の不手際で締切までに十分な時間がなく広知も不十分でしたが、8名の同期生に寄稿して頂きました。取り上げてくれたテーマは多岐にわたります。皆さん医学生時代の雰囲気や漂わせながら、さらに熱く、あるいはさらにクールにそれぞれのやり方で新しいことにチャレンジされています。この近況報告を読んで頂ければ、暖かい気持ちと勇気が湧いてくること間違いなし、です。

（二期生評議員：我謝道弘、百次 仁、比嘉 太）



二期生新年会集合写真@平成25年1月
（木村勝則さんによるオート撮影）

麻酔科医という財産

磯 淳典
（えべおつファミリークリニック）

北海道に移住して20年、開業して14年が経とうとしています。

札幌と旭川の間くらいの中川市の農村地帯である江部乙町（人口は開業時は5000人いましたが、今は4000人に減りました）で、事実上の唯一の医療機関として総合診療、在宅医療みたいなことをやっています。本当は総合内科とか全科とか言いたいところですが、胃内視鏡すらできないのにそのようなことを言う勇氣はとてもなく、内科・小児科・整形外科・麻酔科を遠慮がちに標榜しています。しかし田舎で何でもくるので、ちょっとした怪我から認知症やら、水虫やら、痔の薬、目薬まで節操なく対応していると、何が専門？って患者さんに聞かれて、返答に窮します。整形外科にい

たっては、一応専門のペインクリニックがまだまだ正式標榜できないので、仕方なく出していますが、純朴な江部乙の方は関節注射一発で膝が楽になると、整形外科もできるんだねって褒めてくださいます。もちろん診療所で対応できないもの、自分の苦手なところは市内の連携する病院に積極的に紹介させていただいていますが、とりあえず何でも対応するというスタンスがとれるのは麻酔科・手術場で、いろんな疾患をみて、いろいろな科の先生方とお付き合いしてきた貴重な経験のおかげだと思います。

当時の奥田教授が麻酔科医というのは、空気みたいな存在で何もしなくても、患者さんのそばにいたことが一番大切なんだって言われていたのが、在宅で亡くなろうとする患者さんのそばで見守るしかないときに、心強くおもいだされます。（奥田先生がそんな深い意味をもって話されたどうかはわかりませんが…）

手術麻酔から離れて20年、どちらかという逃